

2 大腸がんとはどんな病気？

大腸は小腸と肛門の間にある消化管で、小腸から消化吸収が済んだ液状の便が運ばれてきます。大腸では主に水分、脂肪酸の一部、ナトリウム、カリウムなどを吸収し、残りが固形の大便となって肛門に送られます。

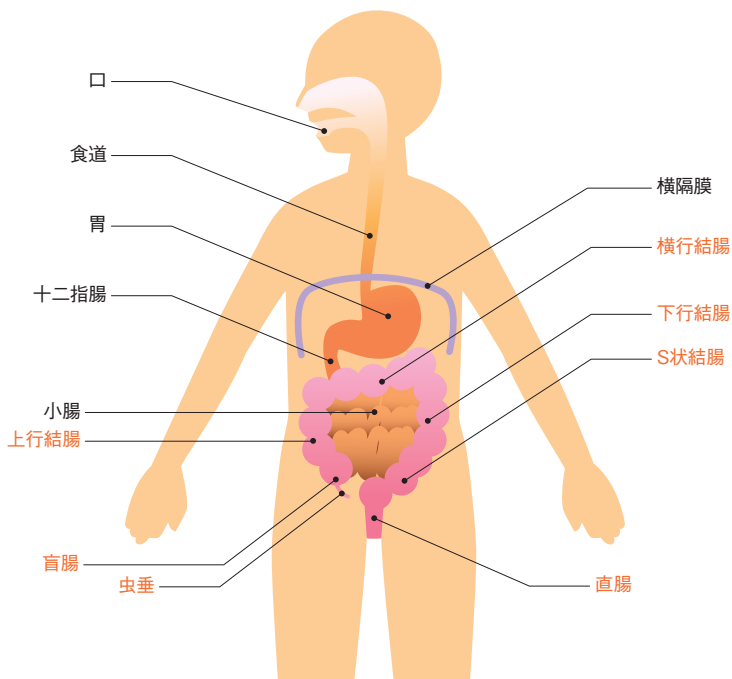
大腸の長さは1.5～2m。小腸側から結腸と直腸に分けられ、結腸は右下腹部から盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸の順に「？」マークのような形でおなかの中を一回りして、その先に長さ約15cmの直腸が続きます。(右図のオレンジ色の文字の部分が大腸です)

大腸の壁は内側から順に、粘膜、粘膜下層などからなり、ほとんどのがんは粘膜の細胞から発生します。発生には二つの経路があると考えられています。

一つは、粘膜からキノコのように盛り上がった良性のポリープが何らかの刺激を受けてがん化するものです。もう一つは、正常な粘膜に何らかの刺激が加わりがんが発生するもので、形は平坦、またはくぼんでいます。日本人の場合、直腸とS状結腸ががんのできやすい部位で、特に最近、S状結腸がんが増えています。この2カ所にできるがんが大腸がんの約7割を占めます。

また「家族性大腸腺腫症」「遺伝性非ポリポーシス性大腸がん」という病気の場合、親から子への遺伝によって発生することがあります。特に家族性大腸腺腫症はがんの発生率が高く、ほとんど40歳代までに発生するので、家族にこの病気にかかった人がいる場合は、若いうちから検診を受けられることをお勧めします。

大腸の位置と部位の名称



【転移】

粘膜に発生したがんは、その後、広がっていきます。最初に発生したところ(原発巣^{そう})から違う場所に伝わって大きくなることを「転移」といいます。大腸がんの広がり方は次のようなものがあります。

●^{しんじゅん}浸潤

粘膜にできたがんは腸壁を破壊しながら大きくなり、やがて腸壁を突き破って周囲の臓器に広がっていきます。

●リンパ行性転移^{こう}

全身を巡るリンパ管にがん細胞が入り込み、リンパ液によって全身にがん細胞が運ばれ、リンパ管の所々にあるリンパ節で増殖します。

●血行性転移^{けっこう}

がん細胞が腸壁の中の静脈に入り、血液によって他の臓器に流れ着いて成長します。

●播種性転移^{はしゅ}

種が播かれるように転移すること。大きくなったがん細胞は腸壁を破って腹膜内にばらまかれ、大きくなっておなか全体に広がります。

がんの進み具合はステージ（進行度）で表します。①がんが大腸の壁に入り込んだ深さ、②どの位置のリンパ節まで転移しているか、③他臓器への転移、の三つの組み合わせで決められています。数字が大きいほど、がんが進行していることを示します。

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 0期 | がんが大腸壁の一番内側の粘膜の中にとどまっている |
| I期 | がんが大腸壁内にとどまっている |
| II期 | がんが大腸壁を破って外まで広がっている |
| III期 | リンパ節転移がある |
| IV期 | 血行性転移（肝臓や肺などへの転移）や腹膜播種がある |